

# 翌年度Aコース：自由テーマ提案書

受付番号 \_\_\_\_\_

(様式第1号)

2005年 5月 31日

## 県とNPOとの協働事業提案書（翌年度Aコース）

千葉県知事 堂本 暁子 様

提出団体名 特定非営利活動法人  
千葉まちづくりサポートセンター  
団体所在地 千葉市中央区新田町 35-8  
代表者名 福川 裕一

連絡責任者氏名  
電話番号  
FAX番号  
電子メール

県とNPOとの協働事業について、関係書類を添付して企画提案します。

1. 事業の名称（事業の正式名称を記入してください。）

県立中央博物館における県民と専門家による「千葉の干潟展」開催事業

2. 事業の概要（400字程度）

千葉県では、2004年度の県立博物館の有料化以降、来館者数が減少傾向にある。もっと県民と博物館との連携を深め、生活・文化ネットワークを構築していく中で、「私たちの博物館」の存続・有効活用の道を相互に模索していきたい。

この事業では、自然誌系の専門家が多い県立中央博物館の学芸員と県民・NPOが、千葉の環境保全のシンボルとも言える干潟をテーマに、協働して「千葉の干潟展」を開催し、県の三番瀬再生プロジェクト等の貴重な調査資料も活用し、県民・NPOと専門家の双方の視点を生かしたわかりやすい展示を目指すほか、開催期間中に環境NPOと協力してシンポジウムや現地調査や観察会などを開催する。その一連のプロセスを通して生み出される博物館の新しい価値を千葉の未来につなげていきたい。

3. 事業の期間 平成18年 5月 1日から 平成19年 3月 31日まで

4. 事業の形態 委託（受託者が実行委員会メンバーを募集）

5. 県に支出を求める金額 3,430,540円

(様式1 - 2)

## 提案事業計画について

### 1 現状の課題認識と提案する事業

(1) 貴団体が考える県が抱える課題とは何ですか。

これからの自治体運営には、市民参加が不可欠とされている。  
まちづくりの視点で見ても、都市計画、地域再生、環境保全、福祉計画等において、市民参加のスキームが重要視されるようになってきている。しかし現在、市民参加の一般的な事業モデルは必ずしも確立されているとは言えず、行政と県民が協働で行うさまざまな実証研究が必要な段階といえる。  
まちづくりの分野での市民参加を難しくしている要因としては、これまでの県民の行政への過度な依存、また、コミュニティの崩壊等に伴う県民の生活・文化ネットワークの喪失があり、これらの再構築が地域社会の課題といえる。  
そうした中で、県民と直接向かい合う博物館は、専門家を有する身近な公共研究機関として、また、生活・文化ネットワークの拠点として、21世紀に重要な役割を担う可能性が大きい。これまでの博物館は、教育面等において高所から一方的に県民に働きかける施設として推移してきた。具体的には地域の課題に取り組む県民の提案による特別企画展示等がほとんど行われていないなど、県民や地域に十分に開かれた施設とはいえず、県民の期待に応え得る専門性を生かした公共施設としての魅力が不足していた。  
まちづくりへの市民参加、市民との協働が求められている現在、県民の目線で県民と一緒に地域の課題を調査・研究し、成果をわかりやすく展示する公共機関が必要であり、博物館は、千葉の自然、歴史、習俗等の豊富な情報や資料と専門性を持つ研究者を有することから、県民及び地域の研究機関として開かれた対応が望まれる。

(2)(1)に挙げられた課題を解決するために、今回どのような事業を提案しようと考えていますか。

県民・NPOと県立博物館の協働による「千葉の干潟展」を開催することで、県立博物館の新たな活動と魅力を引き出し、県民と博物館の生活・文化ネットワークの構築のための実証研究とする。  
メインの特別展示は2007年1月を予定しているが、そのためには長期間の準備が必要であり、2006年5月より本格的に調査や展示物作成等の準備を進め、特別展示の開催期間前と開催期間中に県内3箇所の干潟現場(三番瀬、盤洲、夷隅川流域)で現地調査を兼ねて観察会、撮影会、学習会等を開催し、生活・文化ネットワークを構築していく。

1. 企画テーマ 「(仮称)千葉の干潟展 - その自然と生き物 - 」
2. 主催 県立中央博物館とNPOの実行委員会の共同開催
3. 場所 千葉県立中央博物館と干潟の現場(三番瀬、盤洲、夷隅川流域)
4. 内容 写真と博物館資料を中心とした千葉の干潟の特性や現状を理解するための調査(現地調査を含む)と展示  
干潟ガイドマップ(リーフレット程度のもの)の作成  
シンポジウム、観察会、研究会の開催  
実証実験の報告(県民・NPOの提案を含む)

## 翌年度Aコース：自由テーマ提案書

受付番号 \_\_\_\_\_

(3) 提案する事業は、どのような点でモデル性、創造性、専門性があると考えていますか。

これまでも県民・NPOと県立博物館との連携はあったが、それは主にホールや会議室等の場所の貸借といったレベルにとどまっていた。

今回提案する事業では、博物館の新たな役割を引き出すために、県民の提案に基づいて、県民の目線で県民・NPOと協働して地域の課題（千葉の干潟）について調査研究を行うことで、生活・文化ネットワークの拠点及び県民・NPOに関われた博物館の新しい価値を引き出していく。

自治体運営において市民参加や市民との協働のスキームが必要とされる現在、県民・NPOの提案にも科学的な知見が求められている。私たちの国には、大所高所から課題研究や提案を行う行政系の研究機関や、経済活動の視点から課題研究や提案を行う民間研究機関はあるが、市民の目線でそれぞれの現場の課題について科学的な知見から提案する研究機関は少ない。また、そのような役割を県民やNPO等の民間非営利セクターが担うことが期待されているが、そうした県民やNPOの活動を支援し、連携していく専門性を持った研究機関がこれからの千葉県の発展にとって重要である。弊団体は、こうした博物館への期待を2002年度に「県立博物館構想県民提言」にまとめ、その後も博物館評価尺度づくり等の研究活動を行ってきた。

博物館と県民・NPOの協働の事業モデルは明確に存在していないので、この事業を今後の参考になるような実証研究を兼ねたものとして位置づける。

博物館の研究成果や資料収集成果をわかりやすい展示等によって県民に伝えてもらうには、県民やNPOと博物館が地域の課題を共有し、県民の視点や要望を展示等に反映させる必要がある。県民やNPOとの協働の企画づくり、：現地調査等の資料収集、展示等の一連の活動をとおして「私たちの博物館」の価値が創造され、新たな生活・文化ネットワークが構築できるものと考えている。

(4) 提案事業を行うことによって、この一年間で達成しようとしている成果は何ですか。

また、期待される中長期的な成果も書いてください。

県民と響きあう博物館は、千葉県の生活・文化ネットワークの重要な拠点として機能し、県民やNPOの科学的知見を強化する。そのことは、まちづくりや環境保全の活動だけでなく、地域の課題を解決しようとするさまざまな県民やNPOの関心を高め、示唆的な情報を提供し、活動を活発にする。それは博物館の新しい価値を引き出し、博物館の利用者を増やすことにつながっていく。

この一年間で達成しようとしている本事業の成果は、博物館と県民・NPOが具体的に協働事業を行うことにより生活・文化ネットワークづくりのきっかけをつくるとともに、この作業をとおして協働における問題点や課題を発見し、その改善策について検討・提案することである。

- (5) 県と協働する必要性、県と協働する相乗効果、または全県的もしくは複数の市町村に行き渡る波及効果はどんな点にあると考えていますか。

県民やNPOは博物館の専門家と協働することで地域の課題解決に必要な科学的な知見を学ぶことができ、またその喜びは大きい。こうした連携が千葉県生活・文化ネットワークの構築に寄与する。(リーダー養成とネットワーク構築)

博物館の貴重な人材や資料を生かすことで、博物館の新しい価値が引き出されていく。(博物館の役割拡大)

展示等の企画に市民の視点が加わることで、わかりやすい、親しみやすい博物館となり、利用が増える。(博物館の魅力拡大)

県民やNPOが博物館の調査や展示に参加すると、それらの関係者も来館する。解説者からわかりやすい言葉で話を聞くことで実際の干潟に訪れたいくなり、展示テーマに関するネットワークも広がっていく。(博物館事業への参加と県民意識の啓発)

博物館も県民・NPOもこれまでとは別の人々に出会うことができる。(ネットワークの拡大)

現地の干潟では自然の見方等、体験的な教育普及効果が期待でき、県民が千葉県の自然資源について学ぶことで、貴重な自然が護られる。(干潟保全に関する県民意識の啓発)

本事業のプロセスを記録し、分析して報告(報告書や報告会)することで、本事業を一過性のものとせず、地域の課題解決に取り組む県民と博物館の今後の協働の前例や参考とする。(県民と博物館の協働モデル)

- (6) 地域ニーズや受益者ニーズを取り入れることや、事業成果の普及のために、提案する事業を進めていく過程で、いつ、どのような方法で県民参加の機会を設定しようと考えていますか。

以下の県民参加のプロセスを計画している。

1. 三番瀬・盤洲干潟展実行委員会(昨年度、県立現代産業科学館のスペースを借りて実施)と県の関係課室(中央博物館、文化財課、三番瀬担当課、NPO活動推進課等)に干潟展の準備会を呼びかけて、立ち上げる。
2. 準備会で事業の目的やプロセス等のコンセプトを確認し、HP等をとおして実行委員団体(原則団体)を募集する。実行委員団体の募集に応じた団体を三番瀬、盤洲、夷隅の3つのワーキンググループに分け、実行委員会には、それぞれのワーキンググループの代表(三番瀬3名、盤洲2名、夷隅2名)が参加する。また、実行委員会へのオブザーバー参加は自由とする。
3. 干潟展示を中心に3箇所の現地企画(現地調査、観察会、学習会、展示制作物の作成等)の担当を決め、ワーキンググループが中心になって協力者や県民の関心を高めていく。
4. 房総の干潟マップづくりは、県民から情報を募集、また、成果品を配布する。
5. 干潟展開最中は、実行委員団体が来館者に展示内容を解説するとともに、コミュニケーションを重視する。参加型の展示手法や土・日の子供向けイベントを工夫する。
6. 来館者アンケートを実施する。
7. 参加のプロセスを含めた最終報告書を作成し、県民から本事業の評価を受け、また、事業を通して千葉の干潟の価値と将来を県民と博物館が共に考える。

(7) 提案する事業の実施体制について。

<p>協働したい部署や関係機関（主なもののみ）</p> <table><tr><td>県立中央博物館</td><td>教育庁文化財課</td></tr><tr><td>三番瀬再生プロジェクト</td><td>NPO活動推進課</td></tr><tr><td>自然保護課</td><td></td></tr></table> <p>事業の役割分担</p> <p>(貴団体の役割)</p> <p>本事業を実行委員会方式で推進するためのプロセスデザイン作成と事務局機能</p> <p>(県行政または関係機関の役割)</p> <p>県立中央博物館.....展示会場・シンポジウム会場等のスペースの提供 専門学芸員の実行委員会への参加 資料提供 展示等の専門的指導</p> <p>その他の課室.....資料の提供 実行委員会への参加</p> <p>(その他協力団体があれば、その役割)</p> <p>「三番瀬・盤洲干潟写真展」実行委員会および夷隅地域の環境NPOに実行委員会への参加と資料提供を呼びかける</p> <p>貴団体のこれまでの実績や実施体制の特徴</p> <p>2002年度 シンポジウム「博物館構想に関する県民提言～これからの博物館を考える～」の開催及び「千葉県立博物館構想に関する県民提言報告書」の発行</p> <p>2003年度 千葉県委託事業「県立博物館の新しい価値の洗い出しと評価尺度づくり」の実施</p> <p>2004年度 県立現代産業科学館のスペースを借りて、NPOの実行委員会方式で「三番瀬・盤洲干潟写真展」と関連シンポジウムを開催</p> <p>* 中間支援組織である弊団体は、団体内にコミュニティシンクタンク「市民研究所」事業部門を持ち、上記事業を他のNPOとの連携で行ってきた。</p>	県立中央博物館	教育庁文化財課	三番瀬再生プロジェクト	NPO活動推進課	自然保護課	
県立中央博物館	教育庁文化財課					
三番瀬再生プロジェクト	NPO活動推進課					
自然保護課						

(8) 提案した事業を進めていく上で、想定される課題はどんなことですか。

<p>博物館の学芸員と県民・NPOには、これまでの活動の違い等に起因する差があり、共通の言語探しが必要。</p> <p>組織にはそれぞれ固有の法的・慣習的な判断があり、特に前例のない事態に直面した場合は、責任の所在のあり方等を含めた混乱が予想される。実証研究を行い、協働についての新たな事業モデルをつくる必要性もここにある。</p> <p>実行委員会に参加する団体が、どの程度時間を提供でき、事業全体の内容を相互に補完できるかが課題。</p>
---

(9) 今回の協働事業を行った後、この事業をどのように展開していこうと考えていますか。

19年度以降の事業展開

今後の自治体運営に市民参加や行政と市民・NPOとの協働が必要なことについては、ここまでに述べてきたが、今回の事業はそのために博物館を拠点とした生活・文化ネットワークを構築するステップと位置づけている。

したがって、19年度以降の事業展開は、本事業に直接関連するものと間接的に波及するものの2つの展開を考えている。

直接関連するものは、千葉の干潟保全及び活用に関するものである。干潟ガイドマップの情報を追加・更新し、また、干潟の観察会、研究会を継続していく中で千葉の自然と暮らしとの関わりを継続的に学び、広く県民や次世代に伝えつつ、一方で地域の課題を明確にして課題解決につなげていきたい。今回の事業での展示資料を地域の公民館や学校等に貸し出せるようにして、その先の関心や研究が博物館との生活・文化ネットワークの構築につながるようしていきたい。

間接的に波及するものとしては、干潟以外のテーマについても、博物館と県民・NPOの連携について検討していく。千葉県地域の課題は、干潟保全ばかりではなく、博物館との連携が可能なテーマはいろいろある。

新しい博物館の価値を引き出す中で、博物館の広い意味での活用と、博物館のサポートを身近に感じられる「私たちの博物館」を共に目指す事業を継続して推進していきたい。

## 翌年度Aコース：自由テーマ提案書

受付番号 \_\_\_\_\_

( 1 0 ) 提案する協働事業のスケジュールを具体的に書いてください。

年 月	内 容
	干潟展開催期間中に実施する関連シンポジウム、及び干潟展開催期間前と開催期間中に実際の千葉の干潟で実施する観察会、撮影会、学習会の計画づくり（基本コンセプトは本年度中に準備会で検討する必要がある）
2006,5	契約
~	第1回実行委員会の開催（実行委員団体の募集）
2006,6	県立中央博物館、文化財課、NPO活動推進課等との打合せ
	実行委員会での展示の主旨・方法・内容の確認
	博物館と実行委員会の役割分担と作業スケジュールづくり
	博物館資料とNPO資料のリストのつけ合せ
	使用資料及び使用備品の決定と借用手配
2006.7	現地調査は5月～1月の期間に実施
~	7月～12月に各地の干潟現場での調査と並行して観察会、研究会、撮影会等を実施（日時はワーキンググループで判断し、実行委員会で調整・決定する）
2006,12	干潟に関する資料及び情報の整理、展示資料の作成
	展示資料及び干潟ガイドマップの作成（三番瀬のガイドマップは既にNPOによって作成されていることから、盤洲と夷隅川流域のガイドマップを加えた全県的なガイドマップを作成）
	広報資料の作成と配布
2007.1	県立中央博物館で「千葉の干潟展」開催（月曜の休館日を除く約3週間【21日間】）
2007.2	報告書（実証研究成果や県民提案を含む）作成
2007.3	振り返り報告会の開催と報告書提出

# 翌年度Aコース：自由テーマ提案書

受付番号 \_\_\_\_\_

(様式1 - 3)

## 提案事業の収支計画

提案する事業に係る見積もり金額 3,430,560 円

(収入)

区 分	見積額 (単位：円)	積算根拠(数量, 単価など)
千葉県委託金	3,430,560	
計	3,430,560	

(支出)

区 分	見積額 (単位：円)	積算根拠(数量, 単価など)
旅費交通費	362,300	本調査 「千葉駅～三番瀬」 11,200=@1,400.×2人×4回 「千葉駅～盤洲」 14,400=@1,800.×2人×4回 「千葉駅～夷隅川河口」 19,200=@2,400.×2人×4回 本会議(実行委員会) 「行徳駅～中央博」42,000=@1,400.×3人×10回 「木更津駅～中央博」 36,000=@1,800.×2人×10回 「大原駅～中央博」48,000=@2,400.×2人×10回 「千葉駅～中央博」20,000=@500.×4人×10回 設営 「行徳駅～中央博」28,000=@1,400.×5人×4回 「木更津駅～中央博」21,600=@1,800.×3人×4回 「大原駅～中央博」28,800=@2,400.×3人×4回 「千葉駅～中央博」 7,000=@500.×2人×7回 展示期間 「行徳駅～中央博」25,200=@1,400.×3人×6回 「木更津駅～中央博」21,600=@1,800.×2人×6回 「大原駅～中央博」28,800=@2,400.×2人×6回 「千葉駅～中央博」10,500=@500.×1人×21回
通信運搬費	127,000	チラシ等発送 6,000=@3,000.-×2回 展示資料等の運搬(梱包、保険、リカ-等) 81,000=@27,000×3箇所(三番瀬、盤洲、夷隅) 通信 40,000=@5,000×8ヶ月

## 翌年度Aコース：自由テーマ提案書

受付番号

謝礼金 (スタッフ外)	150,000	シンポジウムパネリスト謝金(交通費を含む) 150,000=@25,000.-×6人 観察会・生物調査等は博物館学芸員の協力 無料
会場費 (観察会、調査等)	30,000	三番瀬、盤洲、夷隅 30,000=@10,000.-×3箇所
印刷製本費	670,000	第一回チラシ 50,000=@5×10000枚 第二回チラシ 120,000=@12×10000枚 ポスター 150,000=@300×500枚 ガイドマップ 300,000=@30×10000部 報告書 50,000=@500×100部
消耗品費	414,000	展示パネル 200,000=@4,000×50枚 ロール紙 36,000=@6000×6本 印刷インク(4色) 48,000=@16000×3セット 看板(屋外) 50,000=@50000×1本 看板(屋内) 30,000=@30000×1本 その他備品 50,000=@50000×1式
人件費	1,641,260	総合プロデュース 100,000=@2000×1人×25日×2h 生物等調査 640,000 企画 108,000=@2,000×9人×2日×3h 本調査 392,000=@2,000×7人×4日×7h 報告書作成 140,000=@2,000×7人×5日×2h 展示物作成 81,900=@780×7人×5日×3h 展示設営 158,340=@780×58人日(7日)×3.5h ガイドマップ作成 60,000=@2,000×1人×15日×2h ポスター・チラシ作成 11,700=@780×1人×5日×3h 展示ガイド 229,320=@780×2人×21日×7h 最終報告書作成 360,000=@2,000×4人×15日×3h
保険料	36,000	@3,000.-×12回(野外分)
計	3,430,560	

### 人件費の根拠

人件費の時給の上限を2000円とし、2000円と780円の2段階に設定している。  
 単価 2,000円 総合プロデュースを行うものは、この事業の実質的な責任者であり、全体の流れを見極めて、交渉や最終決断をしていく必要があり、干潟の知識のほかにプロデュースの経験が必要である。  
 生物等調査(企画、本調査、報告書作成)及びガイドマップ作成に携わるものの時給を2,000円とした。公的なスペースである博物館で行う展示会であり、来館者の期待に応えるには、干潟や生き物に関する生半可でない相当な知識・経験が必要であり、自然観察指導員や環境力

## 翌年度Aコース：自由テーマ提案書

受付番号 \_\_\_\_\_

ウンセラー相当の人材を確保しなければならない。また、これらの人たちは、博物館と県民をつなぐコミュニケーターでもあり、この事業の成果はこの人たちの力に負うところが大きい。更に、不特定多数の県民が関係するこの事業において、リーダーとしての役割を担ってもらう必要があり、調整等のためにここに示しきれなかった時間以外の労力が必要な役割でもある。

最終報告書の作成については、単なる記録としての報告ではなく今回の事業のプロセスや結果を研究成果として残すために、専門的な調査研究の視点や分析能力が重要であり、これにも特別な技能・能力が必要である。

単価 780 円

展示物の作成、展示作業、ポスター・チラシ作成、展示ガイドについては、これもまた創意工夫が必要であり、必ずしも単純作業とはいえないが、リーダーの指示に従って行う作業が多いことから780円/時とした。780円/時としたのは、県の日々雇用単価787円を参考にしている。

# 翌年度Aコース：自由テーマ提案書

受付番号 \_\_\_\_\_

(様式第2号)

## 団 体 概 要

団体名	特定非営利活動法人 千葉まちづくりサポートセンター		
団体の所在地	〒260-0027 千葉県千葉市中央区新田町35番8号山本ビル203		
代表者	ふりがな	ふくかわゆういち	
	氏名	福 川 裕 一	
	住所		
設立年月日	1999年2月14日	1999年2月14日(法人登記)	
団体の目的	まちづくりを推進する個人及び市民団体に対して、その活動の助言及び支援に関する事業を行い、もって不特定かつ多数のものの利益の増進と健全なまちづくりの発展に寄与する。		
会員	個人会員	81名	
	団体会員	4名	
主な活動地域	千葉県全域		
これまでの主な活動内容	中間支援組織として、各種NPO及びまちづくりの相談に応じるとともに、ワークショップ、講座、シンポジウム等を主催し、専門家を派遣している。行政等からは、市民参加の計画づくりのコーディネートに関する事業を受託しており、また、市民参加制度、博物館等についての提案、地域通貨等の実証研究等も行ってきた。		
団体の財政規模 (支出ベース)	前々年度決算	18,603,577円	
	前年度:決算	7,993,591円	
	今年度予算	14,751,171円	
機関紙の発行	有	機関誌名(ピーナッツ通信)	
		発行期間(定期 6回/年)	
ホームページ	有	URL <a href="http://www.jca.apc.org/born/">http://www.jca.apc.org/born/</a>	
連絡責任者	ふりがな		
	氏名		
	住所		
	電話・FAX		
	E-mail		
他団体等(千葉県を含む)からの資金助成及び委託の実績 (過去2か年間)	2003年度	ハウジング&コミュニティ財団	750,000円
	同	千葉県	2,969,000円
	2004年度	千葉県自治大学校	150,000円
	同	千葉市	520,000円
	同	千葉県	2,000,000円
備考			

( 様式第 2 - 2 )

提案事業の実施体制について

氏名	年代	性別	職業	活動・事業の役割	千葉県との関わり
A	50	男	大学教授	企画・作業	( 在住・仕事 )
B	50	女	自由業	企画・作業	( 在住・仕事 )
C	50	男	自由業	企画・作業	( 在住・仕事 )
D	50	男	自由業	企画・作業	( 在住・仕事 )
E	50	男	自由業	企画・作業	( 在住・仕事 )

上記以外の協力者、協力団体等があれば以下に記入してください。

2002年度の「県立博物館構想県民提言」は、弊団体の呼びかけでプロジェクトに参加し、ネットワークの力で報告書を完成させた。弊団体では、今後の千葉県の市民参加のまちづくりや地域振興について、博物館を含めた生活・文化ネットワークの構築が重要と考えてNPO等の多様な主体が協力して事業に取り組む実行委員会方式を重視してきた。2004年度の県立現代産業科学館で実施した「三番瀬・盤洲干潟展」も実行委員会を組織した。

今回の事業提案に関するNPOの理解は相当進んでいると思われることから、協力者・協力団体は多いと思われる。

本事業においても、これまでの弊団体が培ってきたネットワークを活用し、実行委員会を組織し、NPOならではの事業を展開する予定でいる。